

春風秋霜

江利川毅 県立大理事長

明けましておめでとう(笑)と
います。

新年を迎え心新たに二年の
計を考える人は多いと思っ
た人がいる。四書五經の二つ

「大学」に出ている商の湯玉
(紀元前1800年)と。暴
君梁を滅ぼし、商を建国した
聖人)である。彼は洗面用の
盤に「苟日新、日日新、又日

新」(ま)と「日」新たに、
日々に新たに、又日に新たな
れ)と刻み、顔を洗ったたび

に自戒して「苟日新」
故土光敏夫氏は「言葉遊びを
座右の銘としていた。私が旧

座右の銘としていた。私が旧

日本社会の課題解決へ

「日々に新たに」

ける」と受け止め、今日とい
う一日に全力を傾注する人であ
った。東芝再建のため社長
をされていた時の話である。

新しい社訓が必要という部下
の意見に対し、変化の激しい
時代に固定した社訓を作るの
は新しい考え方を阻むことに

成果を上げた人である。その
なにかねないという理由で、
提言を受けて医療保険や年金
それを拒否した。

土光氏は「今日の行いは昨
日より新しく良くなる。明日
集め、全社員に社内報で伝え

の行いは今日よりも更に新
た。その数は千に達したとい

「清純と復興」(56)。

「社員はこれまでと約3倍働
け、重役は10倍働く、僕はそ
れ以上働く」。総理総裁に
しる、社長にしる、リーダー

に要求されるのは、無私の
人、であることだと思っ
た時、天皇陛下の御名御願
を戴いた解散詔書を受議院議

長に届ける役を果たしたと
がある。どうかそのことも記
す(2012)だ。

衆院選は争点も少なく、特
別な風も吹かなかったため、
基盤の弱い政党が議席を減ら

して、自公連立与党は引き続き

特に地球温暖化問題の東日本

3分の2以上の議席を維持す
ることとなった。この数年続
いていた総理交代は日本の国
力の低下につながる。国民は

安倍政権の権威をよしと判断
したものと思っ
いま、わが国が直面してい
る大きな課題は①人口減少、
急速な少子化と高齢化への対

対応景気の低迷からの脱却と
若者の雇用の拡大、地方の振
興③財政再建、特に社会保障
制度の財政の安定④食糧、資

源、エネルギーの安定的確保、
原子力発電問題の環境問題、

特に地球温暖化問題の東日本

特に地球温暖化問題の東日本

大震災からの復興の外交・安
全保障⑤いじめ、オレオレ詐
欺、危険ドラッグなどのモラ
ルの低下などである。

しかし一方で、わが国社会
の持つ良さも随所に残ってい
る。その良さを生かしながら
課題にとり取り組んでいく
か、多角的に議論し英知を結

集める必要がある。
特別国会を経て、第3次安
倍内閣が発足した。新内閣に
は、「日々に新たに」の精神

で、国民の期待に応えて謙虚
にかつ果敢に国政の諸課題に
取り組んでいってほしい。

この欄では日本の課題、埼
玉県の課題、時々話題など
について、私の経験も織り交
ぜながら、立ち止まって考え
る機会を提示したいと思っ

る機会を提示したいと思っ

人口減少、少子高齢化社会
への対応が求められる等、多
様なキャリアを持つ江利川毅
氏の「視座」を月2回の割合
で紹介していく。題字は本人

の直筆。「春風をもって人に
接し、秋霜をもって自らを慎
む」(春風のような和やかさ
で人に接し、秋霜の厳しさを
もって自己を抑制する)

(次回から3面に掲載)
江利川毅氏(えりかわ たけ
し) 1947年行田市生まれ。
県立熊谷高―東京大法政学部卒業
後、旧厚生省に入省。公営問題や
年金、医療保険制度の改正、介護
保険制度の創設などで主導的役
割を担う。2004年に内閣府
事務次官、07年に厚生労働事務
次官に就任。民主党政権下で人
事院総裁を歴任した。現在は埼
玉県立大理事長、医療科学研
究所理事長、熊高森つぐの会
会長などを務める。

研究所理事長、熊高森つぐの会
会長などを務める。

研究所理事長、熊高森つぐの会
会長などを務める。



江利川毅氏(えりかわ たけし)